

カラーバーシルマー試験紙

【使用方法】

①透明フィルムより試験紙を取出し、三角の切れ目で折り曲げます。

②下眼瞼の耳側1/3にかけます。

この時、被験者に鼻側上方を見てもらい、
眼瞼を外下方に牽引するとかけやすくなります。

・R表記の試験紙を右眼に、L表記の試験紙を左眼に使用してください。
・また、試験紙が角膜に触れないように、先端部を結膜囊に入れると、
被験者は自由に瞬目できるようになります。

- 本試験紙は、5mmに青い試験塗料が塗布してあります。
- 涙液5mm以上になると、試験紙に青く色が付きますので、
簡便に涙液量を判定できます。
- 涙液量が多すぎる場合(30mm以上)、試験紙より青い染料が垂れる
場合がありますので、試験紙は頬に触れないように注意して下さい。

□Schirmer試験1法

無麻酔で行い、5分間の涙液量を測定値とします。
その値は基礎分泌量と刺激分泌量の総和と考えます。

□Schirmer試験1変法

点眼麻酔5分後に、5分間の涙液量を測定値とします。
その値は刺激性分泌をなくしたものとされています。

□Schirmer試験2法

鼻粘膜を刺激し、涙腺の反射性分泌備能を測定します。
点眼麻酔後、綿棒で鼻粘膜を刺激し、2分間の涙液量を測定値とします。